

今回の参加は第 20 回大会以来 4 回目である。宿はスタート地点に近いマリンロッジマレア。今年から変わった事はスタート時間が 30 分早まり 7 時となった事、そして 65 歳の年齢制限が撤廃された事です。60 歳以上は約 80 人そして私より先輩の方が 20 名程参加されていました。

(スイム)

いつもの様に暗闇で、スタートまでのその時間にやるべき事を淡々と済ませ、スタート 30 分前には砂浜で緊張？リラックス？何ともとも言えない気持ちでその時を待っていました。今年のスターターは小泉元総理。天候は晴れ。コースロープは真っすぐに沖に伸びている。満潮で流れがないようである。昨年同様アウトコースをマイペースで行く作戦。今年はこれまでになく太陽光線が海底に差し込み気分はハイだ。バトルを避け海底を鑑賞する余裕？で、頑張らない。しかし 1700m 地点からはさすがに頑張らないと進まない。疲れもさることながら潮流が変わった為かもしれない。陸にあがって後ろを振り返る、「後ろにいる、まだ沢山いる」「1:03 分 早い、これまでのベストタイムだ」。



第24回 全日本トライアスロン宮古島大会 2008

(バイク)

これまでスイム、バイク、ランいずれも専用パンツ、ウェアに着替えていた。が今回ハーフタイツで全てをカバーする事にした。サドルをアリオネトライアスロンバージョンに変更した事により何の問題もない(今回の収穫でした)。ホイールはコスミックカーボンデープリムをやめ軽さを重視しロルフを使用した。昨年はバイクの乗りはじめは脚付け根の痛みを耐えていたことを思い出す、しかし今回は気持ちの良いライドだ、スイムでのダメージが少ない様だ。周りの流れに乗って行ける。1 週目付近で、AVR 約 30 km/h を確認。いける！？しかしでもそう旨くは行かないのでした。今日は朝から何時もより下痢気味でトイレで忙しい。そんな状態でもエネルギー補給が仕事のバイクパート。ほぼ時間ごと無理に流し込んでいるジェル、おにぎりはついに拒否され、コンビニのトイレに御厄介。以後次第に戦意喪失、攻めの気持ちが無くなると、づるづる落ちてゆく。まるでサイクリング状態？。(それでもベストタイムだった。これは気象条件とトランジションタイムの短縮によるもの？)



第24回 全日本トライアスロン宮古島大会 2008

(ラン)

今回はトランジションでテントに入る事はない。ランシューズに替えるだけで OK . ゆったりとした気分でランに入った。今回気を付けた事はランでの痙攣防止だった。ランではこれまで何時も納得のいかない結果となっている。1 回目は左膝関節痛と痙攣、2 回目は太ももの痙攣、3 回目は右太ももの肉離れ完治前の状態ででもともに走れない。これまで痙攣に効果があるとされる漢方薬、ナトリウム、特に今回は日常からカルシウムの摂取を試みたのだが。。。6 分/km のゆっくりペースで走り始め

てももなく2kmも経たない時期での太もも内側の痙攣が始まった。かなり強烈でしばし耐えるしかなかった。これで今回のランも先が思いやられる。さらにスピードを下げ、とにかく楽しく走れる事を考える事にした。そこそこ対応を考えたつもりであったが。。。課題は大きい。時々立ち止まる様な走りが続いた。何とも長く感じる。バイク終了時ではこれまでのベストタイムなのに。走れないもどかしさをかみしめてのランが続いた。復路では昨年もそうだった様に、5kmを過ぎた頃トップ選手とすれ違う。今年のトップは河原選手だ、続いて松丸選手も通過。そして藤原選手の真剣なまなざしが心に残る。宮古は今回で4回目になる、ここで知り合った人、他の大会で知り合った人、知人とすれ違い声を掛け合うのも楽しい。折り返し地点には、名古屋から応援に駆けつけてくれた81歳現役トライアスリートの野村さんが、そして岩崎さんもいた。何とも元気付けられる、せめて笑顔で答えよう！。あと21km、エイドステーションがオアシスに見えてくる、立ち止まる時間は次第に長くなるがもはやそれでも良いと思う様になっていた。そして長かった35km地点をやっと通過した。気持ちを持ち直し「あと7kmしかない」と思う事にした。市街地に入るとゴール会場のアナウンスも聞こえ、もうすぐ近い事を感じる。そしてトラックを1周しゴールした。

20回大会は **感動に酔いしれ**

22回大会は **充実感をかみしめながら**

23回大会は **励まされ感謝し**

今回の24回大会は **楽しさを肌で感じながら** テープを切った。

今年は30分早いスタートだった為か、まだ空は明るい。

(レースを終えて)

これまでの3回はゴール後膝関節のアイシングで大変だった。しかし今回は全く違和感がなくほっとした。先にゴールした友人とビールで乾杯となったが、でも、もう私の身体には缶を飲み干すだけの元気が残っていなかった。しかし課題を残しつつも故障、怪我もなく楽しさを実感できた大会だった。翌日、昨年同様「オーバー60の会」主催で感謝を込めてのグラウンド内清掃を実施、今年の宮古島は終わった。

